



2008年4月25日

各 位

会 社 名 アステラス製薬株式会社
代 表 者 代表取締役社長 野木森 雅郁
コード番号 4503
(URL <http://www.astellas.com/jp>)
東 証 ・ 大 証 (各 第 一 部)
決 算 期 3月
問 合 せ 先 広報部長 石川 弘
Tel : (03) 3244-3201

米国コメンティス社とのアルツハイマー型認知症治療薬 共同研究・開発・商業化に関するライセンス契約締結について

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：野木森 雅郁、以下「アステラス製薬」）は、本日、米国の医薬品会社コメンティス社（英名：CoMentis, Inc.、本社：カリフォルニア州サウスサンフランシスコ、President and CEO：Scott Harkonen）と、アルツハイマー型認知症治療薬として期待されている「CTS-21166（開発コード）」を含むベータセクレターゼ阻害剤(Beta-Secretase Inhibitors、以下「BACE阻害剤」)について、全世界での独占的な共同研究・開発・商業化に関するライセンス契約を締結しましたので、お知らせします。

アルツハイマー病は、進行性の認識機能喪失疾患の一つです。アルツハイマー病の原因はまだ解明されていませんが、アルツハイマー病を発症した患者の脳内では、 β -アミロイドというタンパク質の異常増加により、老人斑とよばれるシミが過剰に存在しています。このことから、 β -アミロイドがこの病気の原因の1つになっていると考えられています。

「CTS-21166」は、コメンティス社によって開発された、原因療法となり得る初めての経口 BACE 阻害剤です。ベータセクレターゼは、アミロイドの前駆タンパク質に作用し、脳内での β -アミロイドの異常増加を引き起こすことにより、アルツハイマー病の進展に関係していると考えられています。このため、ベータセクレターゼの働きを阻害し、 β -アミロイドの産生を減少させることは、アルツハイマー病の進行を遅延できるものと考えられています。

今回の契約により、アステラス製薬は、コメンティス社に対して契約締結時に 80 百万ドルの一時金を支払うとともに、同社が新規に発行する株式を 20 百万ドルで取得します。また、「CTS-21166」及び類縁化合物のアルツハイマー型認知症等での開発進展に伴い、締結時の支払いのほか、最大で 660 百万ドルの開発一時金を支払うこととなります。更に、売上に応じて一時金の支払いが発生する可能性があります。また、次世代の BACE 阻害剤の開発進展に応じても、別途開発一時金を支払う予定です。

アステラス製薬は、全世界における独占的な開発・販売権を保有します。米国においてはコメンティス社が第Ⅲ相臨床試験の開発費用について一部負担するとともに、コ・プロモーション権を有し、両社で

利益を分配することになります。米国を除いた地域については、アステラス製薬がコメンティス社に対して売上に対するロイヤリティーを支払います。

コメンティス社は、アルツハイマー病や加齢性黄斑変性症、認知障害における低分子治療薬の創製・開発を目指す医薬品研究開発企業です。同社は、アルツハイマー病治療に關与するアスパラギン酸プロテアーゼ阻害剤（BACE 阻害剤を含む）や、血管形成媒介疾患・認知障害治療のためのニコチン性アセチルコリン受容体アゴニスト／アンタゴニストに関する基盤技術を有しており、現在、アルツハイマー型認知症治療薬である「CTS-21166」等の開発を進めています。

アステラス製薬は、中枢領域を重点研究領域の一つとして位置づけており、「CTS-21166」の導入、ならびにベータセクターゼ阻害剤におけるコメンティス社との共同研究により、同領域での事業基盤強化に貢献するものと期待しています。

以 上